

令和6年3月19日

中学校の部活動の地域移行への対応部会の中間報告（案）

中学校教員の働き方改革の一環として、部活動の地域移行をはかることで校内での活動が、17時45分から16時30分完全下校での活動並びに月曜日と水曜日が休みとなったものの、地域移行に伴う活動実態が整理されていないため、標記部会を立ち上げて令和5年7月より社会教育委員会開催に合わせた話し合い並びに社会的包摂部会との連携から部会長会議を隔月実施してきた。

従来の部活動をそのままの形で地域の指導者に担ってもらうのであれば学校教育課が主体となって考えていけばよく、社会教育委員としての論点は、例えば、今まで運動部であった生徒が、地域のスポーツ団体で活動するだけでなく、新たに生じた時間を活用して他のスポーツや文化的な活動にチャレンジしていくような形も含めた方向性とした。

現在までの状況把握と話し合いの検討内容は以下の通り。

1. 地域移行に伴う行政対応など

中学校部活の地域移行にあたり、生涯学習課がスポーツ協会・文化協会・スポーツ少年団などで中学生の受入をしている団体を取りまとめた「中学生向け生涯学習情報」を作成し中学生に告知していたため、情報の活動状況を確認したところ、電話での問い合わせは少ないものの、ホームページの閲覧数は2千件程度はあることや生徒の交友関係を通じての入会などはあったようだが、全体数の把握はできていない。

2. 他地域の部活地域移行の現状（生涯学習課による情報収集内容）

○三島市；部活指導員（有償）を増員して教員を減らすことで、従来通りの活動となっている。

○沼津市；教育課程を工夫して校内での活動が17時まで確保されるとともに民間団体で地域化の受け皿となる団体が活動を始めている。

○伊豆市；教育課程を工夫して学校内での活動が校舎統合によるスクールバス送迎時間調整も含めて17時15分まで確保されている。

なお、市内関係団体に人材支援及び中学生の受け入れ調査実施中で今年度目途で協議会を開催して今後の方向性を決定

○函南町；伊豆の国市とほぼ同じ動き

○清水町；休日の活動に教員が参加しない方向性で。17時15分まで実施

3. 現在の中学生における実態調査結果

12月26日に大仁中学校を訪問して大仁中学校長と情報交換した結果、部活がない日や下校時間が早まったことにより、ゆとり時間や自主練習並びに塾・習い事の準備などで有意義に活用されている一方で部活がないことによる練習量低下への不満・心配が一部であり、ゲームやメディアを利用する時間が増えていることも判明した。

4. 現状までの話し合いによる問題点や課題について

(1) 部活の地域移行としては有効な手立てもなくある日から帰宅させられて、現状に満足してしまった生徒が新たに何かを始めるといことは考えにくくなってしまっている。

このようなことから、本テーマを「中学校の部活動の地域移行」として進めていくことに疑問が残るので、冒頭に記載した検討の方向性を踏まえたテーマへの軌道修正も必要と考える。

(2) 伊豆の国市のスポーツの現状として、小学生を対象としたスポーツ少年団（行政所管）、中学部活（学校所管）、スポーツ協会（助成金運営）となっており、それぞれの組織毎に運営され、一環した指導・育成体制になっていないことが問題として浮かび上がった。

これより、更なるスポーツの向上を目指して活動等を希望する生徒の受け入れ先として機能していない。

なお、伊豆の国市スポーツ推進計画策定作業が進められていることから、その中に解決策が反映されていくように取り組む必要がある。

- (3) 中体連は教師による運営で進められてきたため、部活が地域化された場合にクラブチームなどの中体連への参加がどのようになるのかによって方向性も変わるので、関連情報の収集に努めていく必要がある。
- (4) 地域移行には指導者や場所などの環境づくりが必須となるが、スポーツが収益となる時代になったことから、クラブチームなどによる受け入れ先も増加するなど選択肢も今度増えていくことが予想されるので、それらを含めての地域での受け入れを前提として検討が必要となる。
- なお、8月末に開署した伊豆中央警察署の柔道場で中学生を受け入れているが、警察における中学生への「営業的」な一面もあり、移行先として含めていくのかを検討する必要がある。
- (5) 文化的な部活についても地域移行が必要であることから、運動に限定することがないような検討とすべきであるが、吹奏楽などは場所だけでなく楽器の用意などを含めた解決が必要となる。

5. その他

- (1) 現状の実態把握については、大仁中学校と部会委員が個別に情報収集した情報で双方に大きな相違はないが、引き続き市内他の中学の情報もさらに入手して、検討の深化をはかっていく。
- (2) 社会的包摂部会との共通キーワードとして
- ①居場所、②移動支援、③世代間交流
- が考えられるため、連携して検討をしていく。

以 上